

## 第1回 沼津市総合計画審議会 第1回元気・健康部会 会議の概要

日時：令和元年10月17日(木) 10:00～12:00

場所：沼津市役所水道部庁舎 3階会議室

資料：次第、資料1、2、基本構想(案)

### 1 開会

### 2 部会長あいさつ

### 3 部会の進め方等について

●資料1「沼津市総合計画審議会部会の進め方等について」、資料2「基本構想骨子案に対する事前意見とその対応について」を事務局より一括して説明。

### 4 沼津市総合計画基本構想(案)について：審議

はじめに、事務局より、第2章「まちづくりの基本理念」、第3章「沼津が目指す将来都市像」、第4章「目指す都市のかたち」の概要を説明。その後、第5章の「まちづくりの柱」の審議を始めた。

**まちづくりの柱1「自分らしいライフスタイルを実現できるまち」について審議。  
事務局より、柱の内容を説明。**

#### ① 誰もがいきいきと輝き躍動できる場づくり

委員)「沼津を愛し、誇りを持ち、自分自身が関わってまちを変えていく」というシビックプライドを醸成するという部分について、この第5次総合計画の役割を終えた後の令和13年度には、今の小学校3、4年生が大学を卒業する頃になる。「醸成する」という言葉では、積極的に「育てる」という印象を持ってない。「人を育てる」ということを、もう少し強調してもらいたいと思う。すでに小学校でも中学校でも、郷土を愛し、郷土の役に立とうとする人を育てるという意識で教育を行っているので、この柱の1または柱の5になるのかもしれないが、「人を育てる」ということを具体的に記載してほしい。

部会長) 具体的な表現のご提案はあるか。

委員) 未来を担う、未来を支える人を育てていく中で、積極的な地域愛にとどまらない、義務や責任を伴ったシビックプライドを育てるというようなことを入れてはどうか。

部会長) そうすると、未来を支える人、あるいは市民でもいいが、例えば、「未来を支える市民を育てていく中で、「沼津を愛し、誇りを持ち、自分自身が関わってまちを変えていく」というシビックプライドを醸成する」というような形か。

委員) 文言としては、前回は修正があったようなので、「未来を担う」が良いと思う。

事務局) 事務局の提案としては、柱1の①の部分では、市民全体を見据えた表現としたた

め、「醸成」という言葉で、徐々に作り出して市民の意識を広げていこうという意味合いで書かせていただいた。未来を担う育成という部分は、どちらかという柱5（例えば④未来を担う人材の育成）でそういった視点を盛り込んでいければと考えている。

委員）柱5でもよいが、より積極的に示すため、柱1にも記載されるとありがたい。事務局）検討する。

委員）「女性や高齢者の活躍」として、ここであえて女性を入れているのはどういう意味か。後の部分で男女共同参画の記載があることから、あえて女性を入れたということか。また、「高齢者の活躍」については、柱6の③高齢者に優しいまちづくりの部分にある「高齢者の社会参画」と同じ意味合いで記載されているのか。非常に良い視点なので、削れという意味ではなく、ここでいう「高齢者の活躍」が、高齢者が生きがいを持って社会参画するとか、社会貢献するという意味合いなのかどうか伺いたい。もしそういう意味合いであれば、もう少し分かりやすい表現がいいかもしれないと思う。

事務局）まちづくりの柱1の部分については、柱のひとつではあるが、その他の柱も含めた全体にかかっていくような大きな視点を持って表現している。委員ご指摘のとおり、後段の「高齢者の社会参画」や、この後の「男女共同参画」の視点も踏まえて、「女性や高齢者の活躍」をあえて特出しして記載している部分である。

## ② 多様性を認め合い尊重するまちづくり

委員）「地域に暮らす全ての人々」の中に、もちろん障害者も含まれていると思うが、なかなかまだ、障害者についての理解が進んでいないのが現状であると実感しているので、「人間としての共生社会」という言葉がどこかに入れればいいかと思う。

事務局）ご指摘のとおり、「地域に暮らす全ての人」には障害者という視点ももちろん含んで考えている。

部会長）共生社会という言葉の内容はいろいろあると思うが、多文化共生という言葉で使われるので、多様な文化を持った人がお互いに認め合っていくというイメージが強いのかもしれないが、共生という言葉は、委員ご意見のように、もっと全体的・包括的な、文化に限らずという意味で使っていく。最近では、そういう意味で「包摂」という言葉をよく使う。包摂型の社会、包摂社会、英語ではインクルーシブな社会。ただ、その言葉が文体として固いところがあるので、あらゆる人たちが共生し合える、支え合えるまち、というエッジの言葉を具体的にもう一言入れたほうが良いのであれば、包摂型の社会という言葉も提案する。適当な表現については事務局で検討してもらいたい。

委員）「仕事と家庭が充実し」とあるが、大人が目線であるようで、子どもに対する教育についてはどうなのか。将来的に沼津に定住していただいて、一緒に共生していくためにも、外国の方の教育をしっかりとっておかないといけないと思う。

事務局）在住外国人に対する教育という視点かと思うが、前段の部分の多文化共生・国際交流で外国人住民との交流やともに暮らすまちづくりというところをお示しした中で、後段は仕事と家庭というところで原案を作らせていただいている。外国人住民の方に対する教育については、その後の部分になるが、柱5の教育に関する部分で同じように取

り組んでいきたいという考えである。

部会長) 私見としては、事務局から説明があったように、②は「また」の前と後で二段構えになっている文章だと思う。後段の部分で主軸になってくるポイントは「ワークライフバランスの実現」であり、それが「健康で心豊かに生活できる」一番基本の条件になるという認識がここで表現されていると思う。前段の文脈をみると、国籍、文化や価値観の違いとか、そういうものについて人権を尊重して個性を認め合うという形で、いわゆる多文化共生であったり、男女共同参画であったりというところを推進するというところが打ち出されている。あくまで多様性を認め合う、多文化共生という文脈に力点を置くと、ひとつの価値観とかひとつの考え方に統合してしまうような、非常に画一的・統合的な教育だけを目指してってしまうようなイメージが出てしまうのは良くない。ここでは、教育についても多様性を尊重するというところを示さなければならない。個人的には、原文のままでこれらの意図が表現できているかと思う。

部会長) 市民の皆さんからは、横文字が多いと分かりにくいという声をよくいただく。「ワークライフバランス」は、かなり浸透してきていると思うが、「シビックプライド」などという言葉については、市民の皆さんに理解されていない可能性がある。市民の皆さんに分かりやすい言葉への言い換えや、注釈をつけるなどという点についても委員の皆さんからのご指摘をお願いしたい。また、事務局において検討していただきたい。

### ③ 社会のつながりやコミュニティの強化

委員) 「コミュニティの維持及び活性化」とあるが、今後10年を見据えた計画と考えると、今現在18地区あるコミュニティについても、組織自体が多少変わってくるのではないかと考える。そういった変化の可能性も含めた内容の表現が良いのではないかと考える。

事務局) 「地域に根ざしたコミュニティの維持や活性化」という部分について、18地区を単にそのまま維持していくような文面に読み取れるというご指摘かと思う。ファシリテスマネジメントや学校の適正規模、適正配置の考え方のように、コミュニティについてもその維持や活性化のための再編等も、10年間という長いスパンではいずれは考えていくべきところかと思う。表現について事務局で検討させていただく。

部会長) 確認だが、現時点で市としてもコミュニティの再編とか統合とかを具体的に想定されているという段階であれば、その辺を書き込むことが10年後の計画ということでは必要かと思うが、そうでなければ、現時点で総合計画に書き込んでいくということになると、逆にそれに縛られてしまうことになってしまうがどうか。

事務局) コミュニティの再編等の計画がまだあるわけではない。「地域に根ざしたコミュニティの維持」という文面が18地区を維持することに縛られているような意味合いに読めるというご指摘であったので、その辺をうまく回避できるような表現があればということで検討させていただきたいと思う。部会長が懸念されるとおり、この総合計画の中において、はっきりと今後再編していくというような考え方をお示しできる段階ではない。

部会長) 表現として、「地域に根ざしたコミュニティの維持」ときて、「及び活性化を図

る」となっているので、どうしても今を維持することを強調しているように読めてしまうのではないかという議論である。例えば「地域に根ざした活力あるコミュニティの維持を図る」という表現にすれば、活力のあるコミュニティ自体を、どういう形、数であれ、維持していくものとして捉えられる。一つの案として検討してもらいたい。

委員)「これからの成熟社会に対応するため」の「これからの」というのが、「精神的な豊かさや生活の質の向上」が求められる社会になるということが大事という意味だと思うが、見方によっては、今までは未熟な社会だったのが、これから成熟した社会になっていくという意味に取られると感じる。分かりやすい表現に修正したほうがいいと思う。

事務局)「これからの成熟社会」ということで、すでに成熟社会に向かっているというところを意図している。これまでの高度成長期を経て、ものが豊かにあふれて、価値観として自分らしい生き方というのを皆さんが求めるようなところが高くなっていく、という精神的な豊かさや生活の質の向上が、これからさらに求められていくことについて、対応していくという考えである。分かりにくいというご指摘を踏まえ、表現については検討させていただく。

委員)「世代間の交流と新たな活動を支援」について、「新たな活動」という部分が分かりにくいと思う。部会長がおっしゃった「インクルーシブな活動」という表現が良いと思う。障害者も含めた考えや、子ども食堂の取組にみられるような貧困家庭の人たちへの対応など、世代間の交流とだけうたうのではなく、あらゆる人を含めた考えであることがもう少し分かりやすい表現にしてほしい。

事務局)このあと、さまざまな活動がこれらのまちづくりの柱のひとつひとつにおいて施策展開されていくというところをイメージしての表現としている。委員ご指摘の視点についても、今後、柱に基づいて定める基本計画の中で、具体的に検討していくという考えで、あえて包括的な表現をさせていただいている部分である。

委員)「世代間」に加え、みんなが一緒にという意味合いの表現が、もう少しいろんな部分も入ったほうがいいのではないかと思う。

部会長)委員ご意見の主旨を強調していくのであれば、「新たな様々な活動」とか、そういうような表現になるかと思う。事務局の説明にあったよう、「新たな活動」というのは非常に広いポイントの言葉なので、原文のままにおいてももちろん委員ご指摘の部分についても含まれているということでご了解いただきたいと思う。

委員)「世代間交流」について。交流拠点である地区センターを12年前くらいから利用しているが、自分の団体だけのつながりから、なかなか世代間交流につながっていかないというのを感じている。これらかの10年を見据え、積極的によりつながる部分を支援してほしいと思っている。「世代間交流」はソフトな表現で分かりやすいが、次につながるという意図が表現できていないと感じる。固い表現になるが、「世代を超えたネットワークの構築」というような、ただの交流ではなく、いろんな世代の方たちと意思をつながらせてくようなものを構築させるという形になってくるとよいと感じた。

事務局)「世代間交流」については、委員ご指摘の意図を含めての言葉として表現しているというのが事務局側の意図である。

部会長) 委員ご指摘の点は重要で、例えば、子育て支援の部分については、高齢者の活躍が期待されていて、若い世代の子育てをどんどん地域で支援していただきたいが、まだ大きな動きにはなっていない。「交流」というと、仲良くしているイメージぐらいでなかなか先へ踏み込めない、踏み出せないというところがあるというのが委員ご意見の部分だと思うので、きちんと築いていくということを視野に入れたような表現を入れたほうがいいのかと思う。今のご意見を参考に事務局で検討してもらいたい。

#### ④ 市民の目線に立ったまちづくり

部会長) 「市民の目線に立ったまちづくり」の「目線」について。「目線」が親しみやすく、分かりやすいというイメージであればこの表現がいいという考え方もあるかもしれないが、通俗的な表現としてはよく聞くものの、言葉として定着しているのかどうか。

「目線に立つ」というのは、市民が見ているのと同じ高さを見ているということなのか。例えば「市民の視点に立つ」という表現もあるが。

事務局) 「市民の視点」という表現も検討してきたところであるが、一般的な「目線」という言葉を事務局としては選ばせていただいた。

部会長) 違和感ないという方が多いのであれば拘る部分ではない。他の委員から特段、そういったご意見ないようであれば、このままでよいと思う。

**まちづくりの柱5「安心して子どもを産み育てられるまち」について審議。**

**事務局より、施策項目①の内容までを説明。**

#### リード文

部会長) 「人材」という言葉は確かに使うが、子どもを主体に考えたときに、子どもたちが子育てしやすいまちの中で健やかに成長していき、結果として、こういう市になるということを示すのであれば、「人材」ではなく、例えば、「地域を支える意欲を持った市民になれるよう」などという表現が良いと思う。事務局で検討してもらいたい。

#### ① 安心して産み育てるための支援

委員) 産前の母親の知識不足から、子どもを産み育てることがとても難しくなってきたり、母親の孤独や、子どもの不登校やいじめというような問題に連鎖していく。コミュニケーションのベースとなる幼少期の関わりがとても大切であり、産前産後のケアという部分については、まち全体で取り組んでいただきたいと思う。

委員) 小学校に入った時点ではもう遅いということがたくさんある。産前産後から幼児期を子どもたちがどう過ごすかということや、不登校や問題行動などの悩みをかかえる子どもや保護者の支援などについても、学校だけで対応できる状況ではなくなっている。ここのところについてはしっかりと取り組んでいただきたい。

事務局) 市としても、産前産後のケアの部分、幼少期から小学校にあがるまでの支援、多様な悩みを抱える子どもたちや保護者への支援については、切れ目のない支援をしてい

かなければならない、重点的に取り組んでいくべき施策であると考えている。今後、基本計画の中においても、この部分を重点施策として検討していきたいと考える。

部会長) これまでの社会的な子育て支援は、子育てを連続したプロセスとしてとらえず、子どもの年代に応じたぶつ切りの支援になっており、相互連携が取れていない。「切れ目なく支援」というところが非常に重要であり、しっかりと取り組んでほしい。

委員) 少子化の時代において、保護者が非常に不安を持っている。乳幼児が集まる講座などで、母親同士でいろいろな悩みを打ち明け合ったりしており、そういう場が非常に重要だと感じている。保護者同士が助け合う、支え合うというようなことが言葉としてここに入れば、基本計画の部分でより具体的になるかと思う。

部会長) 委員ご意見のとおりだと思う。お母さん方がいわゆる孤立した状態の中で子育てすることによって、孤独を抱えたり、悩んだりということが子育てにネガティブ、マイナスな影響を与えたりするので、保護者のいろいろな交流や関わりによって孤立させないことが大事である。言葉としてどこかに入れてもいいと個人的に思う。例えば、「多様な悩みを抱える子どもや保護者への支援に努め」の前に、「孤立化した子育てを防止し、多様な悩みを抱える子どもや保護者への支援に務め、子育て世代の不安や負担の軽減を図ります」など、孤立化した子育ては防いでいくという姿勢をはっきり言葉として出してもいいと思う。

委員) 悩みを抱えた親の中に、障害者を持つ保護者が多いと思う。一般的な公園デビューができず、紹介されて行くのは、障害者が集まる支援センターのようなところになってしまい、その時点で分類されてしまう。「孤立」については、社会からの孤立だけでなく、父親の育児参加が少ないなど、家族の中でも起こっている。障害者も区別することなく、一緒に育てるようなしくみができて欲しいと思う。

部会長) ご意見のとおりだと思う。例えば、「多様な悩みを抱える子どもや保護者への支援」だけではなく、さまざまな交流があったほうがいいと思うので、「様々な交流や支援」という形で、障害者だけをまとめるのではなく、いろいろな人たちとの交流の場を広げていくというような表現はどうかと思う。

**事務局より、施策項目②の内容を説明。**

## **② 仕事と子育ての両立支援**

委員) 確認だが、放課後児童クラブ終了後の時間の預かりだとか、子ども食堂などの要望についての具体的な取組は、「子どもが安心して過ごすことのできる場の充実」として、ここの部分に盛り込まれていくことになるのか。

事務局) まだそういった施策が具体的に決定しているわけではないが、今後、市民ニーズとしてご指摘の部分が高くなっていくことも考えられるので、この「子どもが安心して過ごすことのできる場の充実」という部分で検討していきたい。

部会長) 議論になっている部分については、次の施策項目「③みんなで支える子育て」の地域で子育て支援をしっかりとやっていくという流れの中で、「関係機関と連携しながら、

相談支援体制を充実させ、子どもの貧困や虐待への対策を図ります」という部分において、まさに子どもの学習支援とか、子ども食堂などの典型的な子どもの生活の基本部分から発生している問題についての支援の視点が入っており、②と③で重なりながらつながっていくものと理解する。

委員) 子どもの居場所という話があり、「子どもが安心して過ごすことのできる場所の充実に努める」に含まれるということだったが、「放課後児童クラブや子育て支援センターなど」の「など」に含まれるように見える。働いているお母さん方からの要望がある新たな子どもの居場所についてはまだできていないかもしれないが、「放課後児童クラブや子育て支援センター、子どもの居場所など」と表現するとよいと思う。

事務局) 子どもが安心して過ごすことのできる場として、子どもの居場所である放課後児童クラブと子育て支援センターを明記したものである。

部会長) 委員ご指摘の意図は、放課後児童クラブとか子育て支援センターは、すでにあるが、それ以外の子どもの居場所、そういったことが新たなニーズとして出てきているので、そこを明記して欲しいということだと思う。「放課後児童クラブや子育て支援センターなど、子どもが安心して過ごすことのできる、様々な場の充実に努めます」などとすれば、今後、新たな子どもの居場所など、多様な場の充実にこれから図っていくという姿勢が示せると思う。事務局で検討してもらいたい。

## 事務局より、施策項目③の内容を説明。

### ③ みんなで支える子育て

委員) 外国籍の子どもがとて増えており、子どもの家庭生活がなかなか安定しないというところで、そこに対する支援を要望する声がある。「少子化や家族形態の多様化や外国籍家庭（または外国人家庭）の増加が進む中」というような形で表現してもらいたい。

事務局) そういった視点も必要かと思うので、部会審議の結果を受けて検討したい。

部会長) 委員ご指摘のとおりだと思うので、何かの形で言葉として反映させたいと思うが、「家族形態の多様化」という中に、それも含まれるというのが一つの解釈になると思う。委員ご意見の内容を特出しで書くのもひとつの考え方であるので、簡潔に表現するのであれば、「少子化や家族形態の多様化、国際化」というような形でまとめれば、シンプルで分かりやすいと思う。事務局で検討してもらいたい。

部会長) 子育ての社会化、社会全体で子育てを担っていく、母親や家族だけの責任にしない「みんなで支える子育て」ということが本当に大事だと思うので、ここは少子化対策に直結する重要な課題としてぜひ強調していただきたいところである。地域社会の中にある子育てに関わる主体の中で、私が強調したいのは職場であって、子育てを社会全体でやっていくという時に、職場あるいは働き方を変えていくことが非常に重要である。職場における子育てに対する単なる理解の促進で終わるのではなく、イクボスという視点が説明されたが、理解があって積極的に子育てへの取り組みを支援するというマネジメントができる人がイクボスなので、企業や社会に行政から働きかけていくため

にも、言葉として「職場における子育てに対する理解と支援の促進を図る」と表現してもらいたいと思う。

委員) 小学生から大学生まで研修での関わりがあるが、関わる人、育成する側のコミュニケーションの低さが、そのまま子どもたちに反映されてしまうので、心の在り方、人との関わりなど、職場での環境を整え、その人自身が満たされていないと、いい教育、いい仕事、クライアントへのサービスなどはできていかないと思う。

部会長) ご意見を踏まえると、「職場における」というところを、職場環境や労働環境の改革・改善という視点で、「職場環境の改善や職場における子育てに対する理解の促進を図る」というような表現で検討してもらいたいと思う。

## 5 その他

事務局より、日程の確認等を説明。

## 6 閉会